

こんにちは、2年6組文系チームです！まだ暑さが残っていますね。さて、今回のSSH だよりは小俣真慈、櫻井駿、浅川瑛子が担当します。今回は総文祭で最優秀賞を獲得された小関光太さんと、バイオサミットで審査員特別賞を獲得された横口美佳さんの紹介をします！

審査員特別賞！おめでとう！

—3年間の集大成！「ゲンジボタル（南アルプス集団）の遺伝子解析と分布域の確定」についてのお話を研究チームの一人横口美佳さんに伺った—

Q1. バイオサミットとは？

A. 全国から高校生が集い、生物に関する研究を発表しあう大会。

Q2. どんな研究？

A. 純粋な南アルプス集団を保護するために遺伝子解析をしてその結果を地図にプロットしていった研究。

Q3. 目的は？

A. 純粋な南アルプス集団を保護しているのは山梨県でしか見つかっていない単系統群なのでその遺伝子を守っていくため、また生物多様性を守っていくため。

Q4. 最後に感想を教えてください

A. バイオサミットは全国からレベルの高い研究が集まって来る大会でした。そのような大きな重要な大会なのでとても緊張しましたが、3年間行ってきた研究の集大成として相手に自分の研究を伝えたいという気持ちを持ち、楽しく発表することが出来たのでとても満足しています。バイオサミットで大変だったことは本番ではなく日々の研究です。私の場合は本番間近になってもなかなか良い結果が出せず毎日のように顧問の先生と相談しながらどのようにしたら良いかを模索する日々でした。それでも諦めずにやってきたからこそ今回の審査員特別賞に繋がったと感じています。バイオサミットを通して諦めず粘り強くやりきる事の大切さを学び、成長することができ、本当に良かったです。

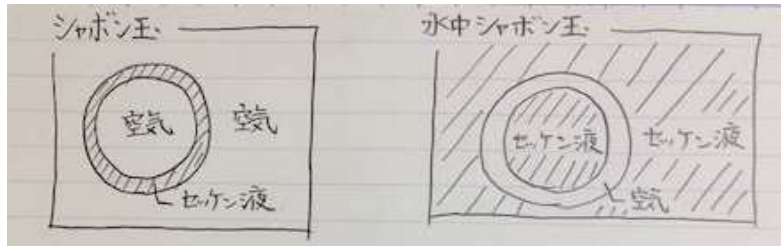
最後にこの場をお借りして生物研究部顧問である萬木先生をはじめSSHなどで携わってくださった先生方、今まで応援や協力をしてくださった全ての方々に感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

祝！佐賀総文祭で全国1位！

— 3年間続けてきた水中シャボン玉の研究。最優秀賞を受賞した研究チームの一人、小関光太さんにお話を伺った —

Q1. どんな実験？

- A. どのようにして水中シャボン玉が作られるのか、なぜ空気の泡の中に液体が浮かぶのかという疑問を元に、この実験に取り組んだ。



← 簡易図

Q2. 評価された点は？

- A. 水中シャボン玉の空気膜ができる様子を実際の実験で試すのはもちろん、加えて、コンピュータシミュレーションを用いて、膜の厚さをより正確に再現して実験を続けた点。

Q3. 苦労した点は？

- A. 試行錯誤を繰り返し、水中シャボン玉を作るのに苦労した。毎回、地道にストローを使ってシャボン玉をつくり、3年間で万を超えるシャボン玉を作った。

Q4. 大学でも研究活動を続けるか？

- A. はい。高校での研究活動は、大学へも通ずる部分がたくさんあるので、3年間、研究したアドバンテージを活かし、楽しく大学での研究活動を続けていきたい。

Q5. 最後に感想を教えてください

- A. 今回物理化学部は第43回全国総合文化祭自然科学部門研究発表物理部門で最優秀賞を受賞しました。物理化学部は一昨年からは総文祭に出場してはいたのですが一昨年、昨年と上位入賞をすることができなかったのですが総文祭連続出場の3年目である今年で物理部門の一位である最優秀賞を受賞することができ本当に嬉しいです。受賞できた理由としては部の大会、SSHの行事等で何回も発表をしてきて場数を踏んできたことで総文祭の発表時に普段通りの発表ができそれが評価されたからだと思います。研究をしていく中で多くの失敗をしてきて途中で投げ出したくなるときもあったのですが粘り強く続けてきて最後に結果につながって良かったです。

最後に・・・

今回のSSHだよりを通して、研究の難しさや楽しさが少しでも皆さんに伝わりましたでしょうか。何かを究めるといのはかっこいいですね！皆さんも是非、積極的にSSなどの活動に参加してみてください！（文責 2年6組 小関真慈・櫻井駿・浅川瑛子）